

平成 23 年 3 月 30 日  
古河電池株式会社

## **据置鉛蓄電池、小形制御弁式鉛蓄電池の運用についてのお知らせ**

3 月 11 日に発生しました東北地方太平洋沖地震により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日でも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

この地震の影響により、電力供給不足の緊急対策として「計画停電」が東京電力株式会社様管内で実施され、また、東北電力株式会社様管内においても計画されております。

停電時のバックアップ用として非常用直流電源装置や交流無停電電源装置（UPS）が設置されている場合、これらの電源装置には据置鉛蓄電池や小形制御弁式鉛蓄電池が搭載されており、停電時には蓄電池から放電してバックアップを行います。

通常は、蓄電池を満充電状態に維持するために常時浮動充電が行われるスタンバイユース（常時待機方式）で運用されています。

しかし、今回の計画停電では、停電が 1 日に 1 回あるいは 2 回実施され、蓄電池は放電と充電を繰り返すことになり、このような計画停電は本来のスタンバイユースとは異なる運用方法となるため、蓄電池には次のような影響があります。

### **(1) 蓄電池性能への影響**

- ① 停電時の放電量が多い場合には、計画停電後の回復充電で十分な充電がされない場合があり、次の停電時に所定のバックアップ時間を確保できなくなる可能性があります。  
また、停電の回数が多い場合、充電時の充電電流が小さい場合、周囲温度が低い場合などでは、更に注意が必要になります。
- ② 充電・放電を繰り返すことにより蓄電池の状態が変化することから、浮動充電時の端子電圧、内部抵抗が安定せず、通常の管理が難しくなる可能性があります。

### **(2) 蓄電池寿命への影響**

計画停電で充電・放電を頻繁に行った場合には、スタンバイユースでの経年劣化に加え、充電・放電の繰り返し（サイクルユース）による劣化が加わることから、劣化の進行が促進されて蓄電池寿命は短くなります。

放電回数が多いほど、また、放電深度が深い（1 回の放電量が多い）ほど、その影響は大きくなります。

なお、不明な点は、弊社担当部署へお問合せいただきますようお願いいたします。

＜ お問合わせ先 ＞

古河電池(株) 品質保証統括部 産業機器品質保証部  
産業機器生産統括部 産業電池技術部  
古河電池(株) 産業機器営業統括部 営業推進部

TEL 0288-22-3113

メールアドレス fb5037@furukawadenchi.co.jp

TEL 045-336-5045

メールアドレス fb2010@furukawadenchi.co.jp